

人間ドックの検査項目とその検査項目の説明

検査項目		検査項目の説明
尿 検 査	尿糖	陽性の場合、糖尿病・腎性糖尿等を疑います。
	尿蛋白	陽性の場合、腎炎・ネフローゼ症候群等を疑います。
	尿潜血	陽性の場合、腎炎・膀胱炎・結石・がん等を疑います。
	尿ウロビリノーゲン	陽性の場合、胆石・総胆管閉塞等を疑います。
	尿PH	通常弱酸性ですが、尿路感染や腎不全等でアルカリ性になります。脱水時等は酸性になり、結石ができやすくなります。
血 液 検 査	ペプシノーゲン	胃がん・胃腺腫・萎縮性胃炎・胃ポリープ等、胃粘膜に萎縮を伴う疾患を診断するための指標となります。
	GOT (AST) GPT (ALT)	肝炎・脂肪肝等の肝疾患や胆嚢炎・胆管結石等の胆道疾患で上昇します。
	-GTP	
	ALP	肝臓・胆道疾患や骨疾患等で上昇します。
	LDH	肝炎・心疾患・血液疾患・悪性腫瘍等多岐にわたる疾患で上昇します。
	CHE (コリンエステラーゼ)	栄養状態や肝臓の能力を知るための検査です。低下すると慢性肝炎・肝硬変・低栄養を疑い、脂肪肝や肥満で高値を示すことがあります。
	ZTT (クンケル)	慢性活動性肝炎や肝硬変で上昇します。膠原病やリウマチ等で上昇することもあります。低値の場合はネフローゼ症候群が疑われます。
	TTT (チモール)	急性肝炎や慢性肝炎、肝硬変等で上昇します。
	T-Bil (総ビリルビン)	ビリルビンはRBC (赤血球) が壊れる際にできる色素です。上昇すると肝臓や胆道疾患を疑います。
	TP (総蛋白)	血液中の蛋白質の総量を調べます。血清蛋白はALB (アルブミン) とグロブリンの二種類に大別されます。低下すると低栄養やネフローゼ症候群・肝硬変等を疑います。尚、A/G比はALB (アルブミン) とグロブリンの比率です。
	ALB (アルブミン)	
	A/G比	
	HBs抗原	B型肝炎ウイルスの感染の有無を調べます。
	HCV抗体	C型肝炎ウイルスの感染の有無を調べます。
	BUN (尿素窒素)	老廃物の一種で腎臓の排泄機能が低下すると血液中に増加します。
	UA (尿酸)	上昇した時を高尿酸血症といい、痛風・動脈硬化・尿路結石をおこしやすくします。
	CREA (クレアチニン)	腎機能障害や脱水症等で上昇します。
	T-ch (総コレステロール)	血液中の脂肪で、多すぎる時を脂質異常症といい、動脈硬化を起こし心筋梗塞や脳梗塞等の原因となります。
	TG (中性脂肪)	糖質の摂りすぎやアルコールの摂りすぎ等で上昇し、脂肪肝につながります。
	HDLコレステロール	善玉コレステロールとよばれ、血管壁についた脂肪をとる働きをします。肥満や喫煙・運動不足で減少します。
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールとよばれ、多すぎると動脈硬化をすすめます。
	BS (血糖)	血液中のブドウ糖の量。飲食により値が上昇するため、空腹時に採血します。
	HbA1c (グリコヘモグロビンA1c)	過去1~3ヶ月の血糖値の平均がわかります。
	PSA	前立腺がん・前立腺肥大・前立腺炎等で上昇します。
	AFP	肝がん・胆道がん・肝炎・肝硬変・胆石等で上昇します。
	CEA	大腸がん・胃がん・肺がん・乳がん等で上昇します。
	CA19-9	膵臓がん・胆道がん・胃がん・大腸がん等で上昇します。
サイトケラチン19フラグメント (シフラ)	肺がん等で上昇します。	

検査項目		検査項目の説明
血	RBC(赤血球)	低下すると貧血を疑います。出血による貧血も考えられるため、原因を調べるのが大切です。
	Hb(血色素)	
	Ht(ヘマトクリット)	
液	WBC(白血球)	体外からの病原体を攻撃する働きをします。感染症や白血病等で上昇します。
	血小板	出血を止める働きをし、貧血や肝硬変・白血病等で低下します。
検査	AMY(血清アミラーゼ)	でんぷんを分解する酵素で、膵臓や唾液腺でつくられるため上昇時には急性・慢性膵炎、耳下腺炎等が疑われます。
	STS(梅毒血清反応)	梅毒に感染しているかどうかを判断します。
	CRP	体内で炎症が起こると血液中に増加する蛋白質の一種です。病気は特定できませんが、上昇により感染症・膠原病・心筋梗塞等が疑われます。
BMI指数		肥満度を計る指標の一つで、22前後が最も病気の発生率が少ないと言われていています。 $BMI = \text{体重}(kg) \div \text{身長}(m) \div \text{身長}(m)$
腹囲		特定健診において、特定保健指導の階層化への重要なポイント。お腹周りが男性85cm・女性90cm以上は内臓脂肪の蓄積が疑われ、注意が必要です。
肺機能(スパイロ検査)		慢性閉塞性肺疾患の発見・診断に役立ちます。
血圧		最高血圧は、心臓が収縮し血管の圧力が最も高いときの血圧。最低血圧は、心臓が拡張し血管の圧力が最も低いときの血圧。高血圧は血管や心臓に負担をかけます。
心電図		不整脈や心肥大等の心臓病をチェックします。
胸部レントゲン		肺結核・肺がん等の発見や心臓の大きさをチェックします。
喀痰細胞診		肺がんの発見に役立ちます。
胸部CT		レントゲン検査の精密検査として実施し、肺がん等の発見に役立ちます。
視力		裸眼視力が0.7以下の場合、屈折異常や眼の病気を疑います。
眼底		眼底の視神経や血管の状態を調べます。高血圧や動脈硬化・糖尿病による変化等がわかります。
眼圧		眼球の内圧を眼圧といい、主に緑内障の発見に役立ちます。
聴力		1000Hz(日常会話の音域)と4000Hz(高音域)を調べます。
胃部レントゲン		食道・胃・十二指腸の造影を行い、潰瘍・がん・ポリープ等の発見に役立ちます。
胃カメラ(内視鏡検査)		従来はレントゲン検査の精密検査として実施してきました。内壁の粘膜表面を直接観察でき、組織採取を行い良性か悪性かの判断ができるメリットがあります。
便潜血		主に大腸からの出血の有無を調べ、大腸がんや大腸ポリープの発見に役立ちます。
直腸指診		医師が肛門から直腸へ指を入れて触診を行います。がんやポリープ・痔の発見に役立ちます。
注腸造影検査		精密検査になり、バリウムを肛門から注入後、空気で大腸を膨らませます。ポリープやがんが疑われる病変があっても改めて大腸内視鏡検査を行う必要があります。
大腸内視鏡検査		精密検査で、肛門から内視鏡を入れ粘膜を直接観察し、組織採取等ができます。
腹部超音波		胆嚢・肝臓・腎臓等を調べ、腫瘍や結石・脂肪肝等の有無を調べます。
子宮	子宮内診	子宮筋腫や頸管ポリープ・付属器腫瘍等の発見の手がかりになります。
	子宮頸部細胞診	子宮頸部の細胞を採取し、子宮頸がんの有無を調べます。
乳房	乳房視触診	乳房にしこりがないか等を調べます。
	マンモグラフィ	乳房のレントゲン検査。乳がん・石灰化等の有無を調べます。

* 健診機関により人間ドックの検査項目が異なります。全ての検査項目が含まれるわけではありませので、ご注意ください。